

令和2年度（2020年度）

自己評価報告書

学校法人巨樹の会
武雄看護リハビリテーション学校
理学療法学科・看護学科

本報告書は、学校法人巨樹の会 武雄看護リハビリテーション学校の自己評価結果を記したものである。

評価対象期間 2020年4月1日～2021年3月31日

令和3年5月31日

学校長 太田 貞武

学校評価実施責任者

副学校長 磯邊 恵理子（令和2年度）

1. 自己評価の概要と実施状況

1) 自己評価の目的、方針

- ①教職員が自己評価を行う中で、学生教育ならびに学校運営に関する自己点検、確認、検討の機会とする。
- ②自己評価の妥当性を学校関係者評価において確認し、学生教育や学校運営についての客観性・透明性を高める。
- ③自己評価ならびに学校関係者評価により、学校運営・教育活動における課題を明確にして、学校運営の改善を図る。
- ④ 自己評価は本校の学校評価実施規程に則り、「専修学校における学校評価ガイドライン」「学校関係者評価の項目」に応じて実施する。

2) 自己評価委員会委員

委員氏名	所 属
太田 貞武	武雄看護リハビリテーション学校 学校長
磯邊 恵理子	武雄看護リハビリテーション学校 理学療法学科 副学校長
小池 恭栄	武雄看護リハビリテーション学校 看護学科 副学校長代行
野村 晋広	武雄看護リハビリテーション学校 事務長
山本 裕宣	武雄看護リハビリテーション学校 理学療法学科 教務部長
太田 裕美子	武雄看護リハビリテーション学校 看護学科 教務部長
秋山 嘉和	武雄看護リハビリテーション学校 理学療法学科 教務主任
納富 裕子	武雄看護リハビリテーション学校 看護学科 教務主任
山崎 めぐみ	武雄看護リハビリテーション学校 事務係長
大宅 由紀子	武雄看護リハビリテーション学校 事務主任

3) 自己評価方法

令和2年度の教育活動、学校運営の全般にわたり、項目Ⅰ～項目Ⅹの内容について、教職員個人による自己評価・自己点検の機会を設け、集約した結果を参照して、自己評価委員会にて評価を行う。

また、評価結果の妥当性を確認し、課題や改善が望まれる項目、その解決の方向性について検討を行い、学校関係者評価結果と併せて、健全な学校運営に役立てる。

2. 自己評価の内容

1) 評定基準

自己評価、学校関係者評価に共通して、各項目の評価は下記に示す達成度による4段階の評定基準にて実施する。

S:十分に達成している。(達成度が高い)

A:達成している。(概ね達成しており、明らかな改善は要しない)

B:達成がやや不十分である。(若干の改善を要する)

C:達成が不十分である。(不適合がある、明らかに改善を要する)

2) 自己評価の内容

項目Ⅰ 教育理念、教育目的・目標、人材育成像

項目Ⅱ 学校運営

項目Ⅲ 教育活動

項目Ⅳ 学修成果

項目Ⅴ 学生支援

項目Ⅵ 教育環境

項目Ⅶ 学生の受け入れ

項目Ⅷ 財務

項目Ⅸ 法令等の遵守

項目Ⅹ 社会貢献、地域貢献

項目Ⅰ 教育理念、教育目的・目標、人材育成像

総括

本校の教育理念は『人間愛と自己実現』であり、学校のスローガンとして「夢叶う ころ豊かな医療人になるために」を掲げ人材育成の大きな方向性を示している。教育理念は、学生・教職員に周知させるため、玄関に掲げると共に、常に学生が目にする学生便覧に明記している。学校理念や教育目標は、学生便覧・ホームページやパンフレット・学生へのメッセージにも記載している。また学校の教育方針は学校長を中心に常に外部及び職員・学生への周知を図っている。

学校スローガンや人材育成像(温かい心・思いやる心・感謝する心を持つ医療人)は入学時のガイダンスや保護者会、オープンキャンパス、高校訪問等において説明している。

理学療法学科においては指定規則の変更に伴い、今年度入学者より新カリキュラムとなっており、日本理学療法士協会の「理学療法教育モデル・コア・カリキュラム」に準じた教育目標やカリキュラム内容としている。

課題

業界のニーズに合わせた人材育成像を随時見直していく必要がある。看護学科は、令和4年度の新カリキュラム改正に向けて、今年度カリキュラム委員会を発足し、教育目標、人材育成像の見直しなどを行い、教育内容を検討している段階である。

改善の方策

カリキュラム見直しの際に、教育理念を踏まえた内容となっているのか確認しながら作業をしていく。

小項目Ⅰ-1

教育理念・目的・目標、人材育成像は定められているか。

■自己評価: S

■コメント

総括に記載の通り定められている。

小項目Ⅰ-2

学校の理念・目的・目標、人材育成像、特色などが、学生・保護者、関係業界(高校、病院、実習施設など)に周知されているか。

■自己評価: S

■コメント

総括に記載の通り周知されている。

小項目 I-3

各学科の教育目的・目標、人材育成像は、対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか。

■自己評価: S

■コメント

適宜業界ニーズを把握しながら育成像を設けている。

項目Ⅱ 学校運営

総括

毎年、学校の教育事業方針、重点目標を設定している。また、年度初めには学校長より教育方針が示され、それらを受け、学科ごとに管理目標を掲げ、個人目標を設定し、計画立案・実施・評価(中間・年度末)を行っている。この内容をふまえて前期末・後期末には各職員と役職者との面談を実施し振り返りを行っている。

学校運営会議・管理会議が意思決定会議として位置付けられ、最終的な意思決定がなされている。学校長を中心に指示系統が明確であり、定期的に会議も行っているため、職員への運営方針周知もなされ意思統一が図れている。

法人間の情報共有もTV会議システムやオンライン会議等を活用し効率的に行っている。

情報システム化に関しては今年の1年生よりタブレット導入をしたため、ICT教育を進めていたが、新型コロナウイルスの影響により早急に遠隔システムを構築していくこととなり、県の補助事業も活用しながらシステム構築を実施できた。そのため遠隔授業も積極的に取り入れ、感染対策に努めた。

課題

教員間の資料共有についても、ICT環境を活用しペーパーレス化を図るなどさらなる効率化を検討していく。

改善の方策

情報セキュリティについて、全職員の共通理解の基、漏えい防止を徹底するために、教職員への教育を継続実施する。

今後も自然災害などでも休校とせずオンライン講義を準備していく。

小項目 II-1

目的等に沿った運営方針が策定されているか。

■自己評価: S

■コメント

本校の教育・運営方針は、学校長より毎年4月に全職員へ伝えられ、周知されている。

小項目 II-2

運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか。

■自己評価: S

■コメント

学生便覧の学則、運営組織図、委員会組織図に示されている。

小項目 II-3

情報システム化等による業務の効率化が図られているか。

■自己評価: A

■コメント

ICT体制が整ったが、活用方法についてはまだ改善の余地がある。

項目Ⅲ 教育活動

総括

新型コロナウイルスの影響で臨床実習や講義が予定通り進行出来ない状況が発生した。学内実習やオンライン講義を開始するなど柔軟に対応した。学内講義に関しては、後期からは遠隔システム機器を活用しながらより迅速にオンライン対応を行うことが出来た。学内実習では、両学科ともに模擬症例を用いた実践など工夫しながら実施した。

今年度は昨年の課題であった教員間評価も実施し、学生による授業評価に加えて教育内容の見直しも行うことが出来た。学生による授業満足度は概ね良好であった。

資格取得の指導体制(国家試験対策)については、1年次より計画的に実施し、早期から基礎分野の知識定着を図っている。また各学年とも成績低迷者へは授業外での時間を使って学習支援を強化した。

課題

職員の研修は、新型コロナウイルスの影響により上半期はすべて中止となっていたため参加することができていなかったが、下半期よりオンライン研修の開催が始まり、数回参加することが出来た。

改善の方策

次年度は、県教育センター講座など積極的に参加していく必要性がある。

小項目 Ⅲ-1

教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか。

■自己評価: S

■コメント

理学療法学科においては、指定規則変更に伴いカリキュラム内容が変更し、1年次から病院実習を行うことで、医療人としての意識付けを強化する仕組みとなった。

看護学科では指定規則変更に向けて新しいカリキュラムを準備中である。

小項目 Ⅲ-2

キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。

■自己評価: S

■コメント

総括に記載の通り実施している。

小項目 Ⅲ-3

授業評価の実施・評価体制はあるか。

■自己評価: A

■コメント

学生による評価や教員間授業評価を行い、教授方法の見直しを図ることが出来ている。しかし、さらに評価内容や集計方法などを検討していく必要性あり。

小項目 Ⅲ-4

資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。

■自己評価: S

■コメント

資格取得の指導体制(国家試験対策)は、カリキュラム内・外で、1年次からと早期より計画的に実施している。今後もさらにブラッシュアップを図り、指導体制の強化を行なう。

小項目 Ⅲ-5

関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など、資質向上のための取組みが行われているか。

■自己評価: A

■コメント

今年度は計画的に参加することが出来なかった。今後もオンライン研修も含め、積極的に学会・研修会等へ参加していく。

項目Ⅳ 学修成果**総括**

【理学療法学科】

今年度は積極的に就職活動を促し、学校長に面接指導していただくなどの支援体制により、1月中旬までに就職希望者全員が就職内定することが出来た。

国家試験対策も全職員により取り組みを実施し、全国平均以上の高い合格率となった。また1年次からも国家試験対策を行っている。

担任と副担任が連携を図りながらこまめに学生支援を行い、3年生全員が卒業、退学者は1年生1名のみであった。その他の学生については全員が進級の予定である。必要に応じて保護者や校内カウンセラーと情報共有している。

【看護学科】

今年度は就職希望者・進学希望者ともに、早期に希望の就職・進学が決定した。就職に関しては、履歴書の指導・面接指導など学校長の指導をいただきながら行った。

国家試験対策では、成績低迷者には多くの教員が関わり学習支援を行い、全員合格へと導くことが出来た。

今年度は、2年生が進路変更で2名退学となったが、1年生・3年生には退学者はいない。適宜面談を行い、学習状況や生活面など状況を把握しながら相談しやすい環境を作っていた。

課題

国家試験合格率100%を継続する。退学者0を目指す。

改善の方策

今後もきめ細やかな学生対応を実施し、上記課題の達成を目指す。

小項目 IV-1

就職率の向上が図られているか。

■自己評価: S

■コメント

履歴書指導や面接練習は、教員および学校長により実施している。自信を持たせて就職試験に臨むことが出来ており、好結果に繋がっている。

小項目 IV-2

国家試験合格率の向上が図られているか。

■自己評価: S

■コメント

教員一丸となって取り組み、看護学科全員合格、理学療法学科は全国平均よりもはるかに高い合格率であった。

小項目 IV-3

退学率の低減が図られているか。

■自己評価: S

■コメント

退学者がわずかにいたが、4 クラスは全員進級又は卒業という状況であった。皆勤賞も過去最大の人数となった。定着率は高い。

小項目 IV-4

在校生の社会的な活動を把握しているか。

■自己評価: A

■コメント

今年度は、コロナ禍であり在校生の社会的な活動はあまり行えなかった。

小項目 IV-5

卒業生の社会的な活躍を把握し、教育活動の改善に活用されているか。

■自己評価: A

■コメント

卒業生に対しても今年は就職先への訪問も行えなかった。しかし、後輩支援のためにと在校生が複数名来校してくれたため、その都度就業状況などの活動把握を行っていった。

項目 V 学生支援

総括

就職支援については、例年就活セミナーや就職説明会を実施。学校長にも履歴書指導や面接指導等関わっていただいております、学生の就職希望状況を把握しながら教員全員で就職指導している。

学生相談に関する体制は十分に整備されている、今後も学生目線でしっかり支援していく。

夏の保護者会は新型コロナウイルスの影響により中止したが、随時連絡をしながら連携を図っている。

高校との連携についても、コロナ禍の状況をふまえ、感染対策を図りながら工夫して実施し、本校についての情報提供を行っていった。その中で就学支援体制も説明している。

また在校生に対しても、各種助成制度の案内や学生寮・駐車場の整備も引き続き行っている。

課題

今後も学生支援、高専連携を強化していく必要がある。

改善の方策

今後も信頼される学校づくりを行い、高校訪問等で情報交換を行い、さらに高専連携を図っていく。

小項目 V-1

進路・就職に関する支援体制は整備されているか。

■自己評価: S

■コメント

総括に記載している通り支援体制は整備されている。今後も継続して支援していく。

小項目 V-2

学生相談に関する体制は整備されているか。

■自己評価: S

■コメント

学生一人一人を把握し、各教員がコミュニケーションを取り学科内で情報共有しながら支援している。必要に応じてスクールカウンセラー利用も促している。

小項目 V-3

保護者と適切に連携しているか。

■自己評価: S

■コメント

総括に記載の通り、今年度は説明会を設けなかったものの、適宜連絡を取ることで情報共有を図ることが出来た。また、卒業式の際などに保護者からは「本校を選んでよかった」との意見を頂いた。

小項目 V-4

高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組みが行われているか。

■自己評価: S

■コメント

高校との連携によるキャリア教育(職業体験)は今年の前半は行えていなかったが、夏以降からはオンラインでの職業説明や卒業生を連れての高校訪問など依頼に応じて対応し、情報提供を実施した。

小項目 V-5

修学支援体制が整っているか。

■自己評価: S

■コメント

特待生減免制度や各種給付金制度が整っており、制度利用学生も多数いる。今年度も新型コロナウイルス関連の助成制度など随時学生へはアナウンスを行った。

項目VI 教育環境**総括**

今年度は感染対策に向けた備品の整備や遠隔システム構築を行った。そのため感染対策を講じながら対面授業やオンライン授業を実施できた。学習効果を高めるために、DVD 購入や動画配信での講義の導入も行った。また、今年度新入生よりタブレット導入を行い Wi-Fi 環境を整えたが、今後も使用状況について検討を進める必要性あり。

理学療法学科の実習施設について、新型コロナウイルスの影響により実習受け入れは十分でなかったが、隣接する新武雄病院の協力のもと密に連携を取り一部実施することが出来た。

看護学科では実習施設と協力して学習支援ができるよう定期的に指導者会議を開催し、情報交換や学生指導方法について検討を行った。特に、新しい実習施設とは実習指導の在り方考え方の違い

が生じないように、学校と施設の連携を密にとった。

課題

ICT 環境は整っているが、教員側がもっと活用できるように努めていく必要がある。

また老朽化した物品もあるため整備していく必要性あり。

改善の方策

教員の活用スキルを上げるために研修など行っていく。

プロジェクターは次年度買い替えを予定している。

小項目 VI-1

施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか。

■自己評価: A

■コメント

総括に記載の通り、感染対策や ICT 環境を整備することが出来た。

小項目 VI-2

学内外の実習施設等について十分な教育体制を整備しているか。

■自己評価: A

■コメント

総括に記載の通り、コロナ禍により例年通りの受け入れ状況とはいかなかった。しかし看護学科では、母性看護学実習・在宅看護論実習などの実習施設を佐賀県内の近隣施設に新たに申請を行うなどより良い実習体制を整えることが出来た。

小項目 VI-3

防災に対する体制は整備されているか。

■自己評価: S

■コメント

防災マニュアルも見直し、避難訓練も2回実施できた。

項目VII 学生の受け入れ、募集**総括**

今年度は、新型コロナウイルス感染対策で5月6月の学校説明会を中止したが、その後のオープンキャンパスは感染対策に努めながらオンラインも併用するなど柔軟に対応した。また高校訪問も行えなかったが、各高校へパンフレット・募集要項に加え、今年度は卒業生からのメッセー

ジや近況報告を郵送するなど、本校の雰囲気や良さがより伝わるような工夫を行った。ホームページや SNS などでも学校情報を正確に配信している。

高校ガイダンス(WEB 含む)は在校生が母校に向くなど学内状況が伝わる取り組みも行った。今年度の入試は募集定員に達したため後期日程は中止とした。

課題

今後も、感染対策を講じた広報活動が必要である。

改善の方策

学生目線で情報伝達を行っていけるような工夫をしていく。

小項目 VII-1

高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取組みを行っているか。

■自己評価: S

■コメント

総括に記載の通り行っている。

小項目 VII-2

学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか。

■自己評価: S

■コメント

学校説明会などでは在校生も参加し、積極的に参加者への情報提供を行ってくれている。

項目Ⅷ 財務

総括

財務は法人本部と各学校の財務の二重体制(予算書は1月末に1回目を本部へ提出し確認してもらい、2月末に2回目を提出し再度本部に確認)をとっており、管理が行われている。

予算については前年度経理・各学科新年度の事業計画を検討したうえで予算を立て、次年度の収支・支出のバランスを取りながら有効的に利用している。

県より私立専修学校運営費補助金及び必要に応じて設備整備費補助金の申請し学校運営を円滑に行っている。また、引き続き職員へも経費について情報提供を行い、職員全体で節約に努めている。経理監査は年に1回会計士により行われている。

課題

学校周辺部の修理などに多額の費用が掛かる恐れあり。職員や学生が省エネに対するの意識を高める必要性あり。

改善の方策

引き続き節約に努めながら、教職員へ経費削減への指導を行っていく。

小項目 VIII-1

中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか。

■自己評価: A

■コメント

徐々に学生数が確保されてきており安定した財政となっている。

小項目 VIII-2

予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。

■自己評価: S

■コメント

総括に記載している通りである。

小項目 VIII-3

財務について会計監査が適正に行われているか。

■自己評価: S

■コメント

総括に記載されている通り会計監査を実施しており、今後も継続していく。

項目Ⅸ 法令等の遵守

総括

各種法令遵守は行えている。個人情報保護に関しては法人全体の規定を設けており、教職員及び外部講師、学生が遵守すべき事項が定められている。学生に対しては、実習中においても SNS の取り扱いも含め個人情報保護指導を行った。今年度も、企業にも協力してもらい、SNS の使用についての特別講義を実施している。

職員に関しても、パソコンや iPad など情報端末の取り扱いについて改めてルールを決め対策を取っている。

課題

本校ではこれまで問題は起こっていないが、今後も教育を継続していく必要がある。

改善の方策

教員・学生に対して個人情報保護に関する教育を毎年実施していく。

小項目 X-1

法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。

■自己評価: S

■コメント

法令や設置基準を遵守しており、今後も継続する。

小項目 X-2

個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。

■自己評価: S

■コメント

外部企業による個人情報保護の研修を実施してもらっている。

項目 X 社会貢献・地域貢献**総括**

今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止目的のため積極的な施設貸し出しを行わなかったが、隣接する病院の研修などへは貸し出しを行った。

また、通常はボランティア活動を推奨しているが、今年度は、ボランティア募集も少なく、活動に参加できなかった。しかし、校内での美化活動や地域の清掃活動、行事の手伝い等ボランティア精神をもって行動することを常に指導している。本校のオープンキャンパスに一部の在校生がボランティアとして参加し学生募集に貢献してくれた。

課題

コロナ禍のため外部ボランティア募集がほとんどなく、例年と比較し参加できていない。

改善の方策

学生の希望者も多いためコロナ終息後は随時再開していく。また、学内でもボランティア精神を持った活動を行えるよう学生の主体性を促していく。

小項目 X-1

学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。

■自己評価: A

■コメント

総括に記載の通りである。

小項目 X-2

学生のボランティア活動を奨励しているか。

■自己評価: A

■コメント

学内活動の際もボランティア精神をもって行動するように自主性を促す関りを行っている。